

常 (目標・努力・発見)

令和2年3月10日
北方町立北方中学校
学校だより 第11号

第73回 卒業証書授与式の様子



<答辞> 令和2年 3月 6日

思いおこせば、3年前、北中生として初めて学校の門をくぐった時に感じた「期待と不安の気持ち」は、今でも忘れることができません。あの日から始まった中学校生活は、心も体も大きく成長した3年間でした。今、僕の胸にあるのは「仲間とのつながり」です。

1年生の頃は、初めて合う顔ぶれにとまどい、部活動や体育祭などの新しい環境の変化に緊張して、仲間と本音で語り合うことができていなかったように思います。僕が「仲間とのつながり」を特に強く意識するきっかけとなったのは、2年生の時です。しかし、先輩と呼ばれるようになった2年生の僕たちは、なかなか落ち着きをもつことができませんでした。今思えば、恥ずかしいほど授業中落ち着かず、掃除も合唱も集中できない姿が当たり前のよ

うになっていました。毎日の生活全体が、一部の人しか動いていなくて、いつも先生方に叱られたり、止めてもらったり、けじめのない生活をしていました。「これではいけない。」そう思っていたのは僕だけではないはずですが、しかし、集団になると「これくらいいいや。」といった弱さに、生活が変えられずに過ぎていったのも事実です。ただし、自分の弱さから逃げることしななかったのも事実です。そのために、傷ついたり、喧嘩をしたりすることがありました。身勝手かもしれませんが、そんな気持ちをわかってもらえない悔しさを感じたのも2年生でした。

そしてそんな「仲間とのつながり」の中で、自分には何ができるのかを考え始めた3年生。中学校最後の体育祭では、「一丸～熱くなれ仲間とともに～」のスローガン達成のために、本気で戦い、最高の体育祭を創ることを目指しました。青団だった僕たちは、応援練習で何度やっても動きがそろわず、くじけそうになった時がありました。その時、「大丈夫！大丈夫！きっとできるよ。」と、団長の君の仲間を信じ切った大きな声が響いて、はっとしました。団リーダーがみんなに寄り添い、最後まで呼びかけてくれているのだから、あきらめずに全力を出すことが大事なのだと、気づくことができたのです。体育祭は全ての団が優勝できたわけではありません。しかし、優勝した団も、そうではない団も、優勝よりも強い、「仲間とのつながり」、「一丸」を手にすることができた、最高の体育祭になったと思います。僕たちは、弱さに流れてしまうのも仲間であるが、一人では感じることはできない達成感が感じられるのも仲間だということ学びました。自分のことしか考えずに、自分だけの楽しさばかり考えていた2年の頃から、少しずつ変わることができました。それは決して一人の力ではありません。「仲間とのつながり」の中で共に高まってこられたからこそ、色々なことに気づき、変わったのだと思います。

この最高の仲間たちと北方中学校を卒業できることは僕の誇りです。この「仲間とのつながり」を大切にできるようになった自分を信じて、これからの未来に立ち向かっていきます。

在校生の皆さん。これからは皆さんが北中を引っ張っていく番です。これまで以上に大きな壁にぶつかることもあるでしょう。大きな壁にぶつかったときこそ、強く仲間を信じて下さい。仲間を信頼することが「仲間とのつながり」を大切にすることです。毎日の中で、思うような結果が出なくても、仲間と関わることで生まれるつながりがきっとあります。ぶつかったとき、本音を打ち明け、それが原因で対立が起きても、そこから学級や学年がさらに成長する関係が生まれるはずですが、僕は、苦しいとき、あきらめそうになったとき、仲間と一緒にやっていくと少しずつ見えてくるものがありました。

在校生の皆さん。仲間を信じ、仲間とつくるものは財産になることを信じて、一層素晴らしい北中を創り上げてください。

さて、今日まで健やかに過ごし、こうして卒業の日を迎えることができたのは、たくさんの方々を私たちが守り、支えて下さったからです。授業はもちろん、普段の生活の中でも私たちが厳しく指導して下さった先生方、進路で迷っていた時も真剣に相談に乗って下さった先生方の言葉には、大きな説得力があり、とても心強かったです。本当にありがとうございました。そして、どんな時も味方でいてくれた家族のみなさん。学校でうまくいかず落ち込んでいた時、誰よりも僕たちのことを理解してくれたおかげで、再び前向きになれました。反抗した時もありましたが、それでも僕たちの思いを受け止め応援し続けてくれた家族には、感謝してもしきれません。いつもは改まって言うことはできませんが、本当にありがとうございました。

最後になりましたが、小さなときから学校へ向かう道で僕たちを見守り続けて下さった地域の皆さん。いつもあたたかい挨拶や言葉を投げかけてくださり、安心して過ごせました。本当にありがとうございました。いよいよお別れの時が来ました。友達と話をしていた廊下。土煙立ち上がったグラウンド、あいさつを交わした校門。大好きな仲間たち…。僕は、この北方中学校が誇りです。この学び舎で学んだ、すべてを自分の糧として、これからも更に高まっていくことを誓い、答辞とさせていただきます。

<連絡> 送辞と式辞は、ホームページで紹介させていただきました。